

平成 22 年 6 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520009
 研究課題名（和文） 現代における判断力の思想的可能性の検討
 カント判断力概念の包括的再考を通じて
 研究課題名（英文） A Study on Philosophical Possibility of Judgment in Modern Society
 Through Comprehensive Reconsideration of Kant's Concept of Judgment
 研究代表者
 小野原 雅夫（ONOHARA MASAO）
 福島大学・人間発達文化学類・教授
 研究者番号：70261716

研究成果の概要（和文）：カントの判断力概念を、概念的、成立史的、体系的観点から包括的に研究していった。カントの有名な反省的判断力ばかりでなく、規定的判断力にも十分な目配せをしたうえで、理論哲学、実践哲学、美学、目的論などさまざまな場面で働く判断力の全体像に迫ることができた。

研究成果の概要（英文）：We investigated Kant's concept of Judgment comprehensively from the point of view of the history of ideas, the development of Kant's thought and his system of philosophy. We clarified Kant's concept of judgment entirely, not only determining power of judgment, but also reflective one, which work in the various spheres, especially in his theoretical or practical philosophy, aesthetics, teleology.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：倫理学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：哲学、倫理学、イマヌエル・カント、判断力、反省的判断力、規定的判断力

1. 研究開始当初の背景

現実の世界において専門職業人が自らの力を発揮する場合に、個々のパフォーマンスの裏には、本人が自覚しているか否かは別として、常に判断が存している。彼らのその時々適切な判断を生み出す判断力は、経験を通して次第に豊かになっていくが、その機能や成長のプロセスは謎に満ちており、その解明が切望されている。この捉えがたい判断力の姿を、イマヌエル・カントの思想を

媒介として、全体的に把握していこうというのが、本研究に着手した動機である。

『判断力批判』を中心とした、反省的判断力に関する研究はこの数十年の間に莫大な蓄積がなされてきた。当初はもっぱら美学の専門家が『判断力批判』を美学の書として論ずるという研究が多数を占めていたが、昨今では、『判断力批判』が美感的判断力の批判と目的論的判断力の批判という2種類の反

省的判断力を扱った書であることの哲学的意味を追求し、とりわけカントが理論哲学と実践哲学を架橋するという重要な役割を『判断力批判』に託したことの意味を解明しようとする本格的な研究が続々となされてきている。それと同時に、ハンナ・アーレントのように、カント哲学の枠組みを超えて、カント判断力概念（特に反省的判断力概念）のアクチュアリティを問おうとするユニークな研究も登場して、広汎な議論を呼び起こすのに一役買っている。しかしながら、反省的判断力と規定的判断力の両者を視野に納めた包括的研究というのは、世界的に見てもまだ見当たらないというのが、研究開始当初の状況であった。

2. 研究の目的

『判断力批判』を遺したカントは、現代において判断力の問題を考えていくにあっても、常に立ち返って行くべき豊かな思想的源泉である。カントは判断力を規定的判断力と反省的判断力とに区分したが、『判断力批判』で取り上げたのはそのうちの反省的判断力だけであった。規定的判断力に関しては、『純粹理性批判』や『実践理性批判』など随所で言及されているが、まとまった論考が残されているとは言い難い状況にある。本研究は、反省的判断力ばかりでなく規定的判断力にも十分な目配せをした上で、理論哲学、実践哲学、美学、目的論など様々な分野において、判断力一般がどのような機能を果たすのかを包括的に捉えていくことを目的とする。

3. 研究の方法

カントの判断力概念を包括的に捉えていくためには、まず、a.カント以前の判断力概念の前史を踏まえておく必要がある。さらに、b.カントの思想的発展の中で判断力概念がどのように生成してきたかという成立史をpushしておかなければならない。とりわけ、「反省的判断力」というカント固有の判断力概念がいかにして生み出され、規定的判断力と区別されるに至ったのかに関する成立史的研究は不可欠である。その上で、c.カント哲学体系の中で判断力がどのように位置づけられ、そして判断力そのものがどのような全体像を成しているか（理論的判断力と実践的判断力、規定的判断力と反省的判断力、美学的反省的判断力と目的論的反省的判断力、等々がそれぞれどのように関係しあっているか）という体系的研究が必要とされる。これらの方法を、共同研究という形で、各研究者が互いに重ね合わせながら用いることによって、カントの判断力概念に重層的に取り組んでいくことにした。

4. 研究成果

研究成果としてはとりわけ、下記〔図書〕の欄に挙げた『現代カント研究 11 判断力の問題圏』と『科研費成果報告書』の二著を刊行することができた。それらには、現在カントの「判断力」を語らせたら間違いなく世界最高水準の研究者として名前が挙がるであろうハイナー・クレンメ教授（マインツ大学）の論考も収めてある。クレンメ教授も含めた研究チームの共同研究によって明らかになったのは、以下の諸点である。

(1) カントの判断力、とりわけ反省的判断力の思想的源泉として、アリストテレス=キケロに由来する「レトリック」概念にたどりつくことができる。

(2) 判断力をめぐってカントは、1780年代中期に思想的転回を経験したわけだが、実例と判断力との関係に関する思索が重要なポイントとなっており、そこから「判断力の自己自律」という思想が形成されていった。

(3) 反省的判断力という概念が鮮明化されていく一方で、規定的判断力はあたかも傍流に追いやられたような感があるが、理論哲学の根幹部分（自然科学の形而上学始原）において、規定的判断力は働き続けており、現実世界を規定するという機能を果たしている。

(4) それに付け加える形で反省的判断力は、たんなる自然のメカニズムだけではなく、自然の目的論を可能ならしめ、それによって実践理性の立場から自然を捉え直すことが可能となる。

(5) 一方、実践哲学の分野においては、1780年代に至るまでに、「幸福」と「道徳」をめぐる思索の展開の中でしだいに、判断力は幸福に関わる能力（伶俐）という位置づけを与えられ、実践哲学から退いていった。

(6) しかしながら、カントが最終的に築き上げた「道徳」の理論は、現実の世界における人間の行為を規定することはできず、やはり道徳原理と現実とを繋ぎ、具体的な行為を案出する判断力、すなわち規定的判断力を必要とするのであり、カントはそれを政治や教育など、実践哲学の応用的部門において展開しようとしていたのである。

これら6つの論点はいずれも、日本国内のみならず国際的なカント研究の水準に照らしてみても、ひじょうにオリジナリティに溢れた、先進的な研究であると言えるだろう。のみならず、これらを一著にまとめた判断力に関する叢書というのも、世界史上、他に見出すことはできない。反省的判断力と規定的判断力をトータルに捉え、理論哲学と実践哲学と美学・目的論すべてにおける判断力の働きを射程に収め、それらに対して概念史的研究、成立史的研究、体系的研究というあらゆる角度からアプローチしようとしたことは、カント研究史上に名を残し、今後の研究の方向性を左右していくことになると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計21件)

小野原雅夫、カント実践哲学を補完する自由な判断力、2007~09年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書『現代における判断力の思想的可能性の検討』、査読無、2010、5-17

Takayuki Kisaka、Die Moeglichkeit der metaphysisch bestimmenden Urteilkraft、2007~09年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書『現代における判断力の思想的可能性の検討』、査読無、2010、18-33

Heiner Klemme、(Praktische) Vernunft und Natur in Kants Kritik der Urteilkraft、2007~09年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書『現代における判断力の思想的可能性の検討』、査読無、2010、34-46

齋藤宜之、「個物」への通路 反省的判断力の意義、2007~09年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書『現代における判断力の思想的可能性の検討』、査読無、2010、104-115

船木祝、蓋然的判断への思い込みは克服可能か カント『ウィーン論理学講義』における「賭け」に関する記述を手掛かりにして、2007~09年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書『現代における判断力の思想的可能性の検討』、査読無、2010、116-124

小野原雅夫、規定的判断力の自由 定言命法の下で仮言命法を案出する技術的判断力、現代カント研究、査読有、11巻、2009、1-20

山根雄一郎、レトリックと判断力 「反省的判断力」の起源とその射程をめぐの一試論、現代カント研究、査読有、11巻、2009、108-130

木阪豊行、形而上学的規定的判断の可能性 自然科学の形而上学を支える理性の判断力、現代カント研究、査読有、11巻、2009、21-44

八幡英幸、判断力の自己自律 1780年代中期のカントに生じた思想的転回、現代カント研究、査読有、11巻、2009、87-107

船木祝、「幸福」と「道徳」 1780年代初頭頃に至るまでの「判断力」を巡るカントの思想形成過程、現代カント研究、査読有、11巻、2009、68-86

ハイナー・クレムメ、カント『判断力批判』における(実践的)理性と自然、現代カント研究、査読有、11巻、2009、45-67

山根雄一郎、『判断力批判』におけるカントのキケロ評価とその射程、大東文化大学紀要・人文科学、査読無、47号、2009、85-99

八幡英幸、判断力とその対象:「特殊なもの」をめぐるカントの思索、熊本大学教育学部紀要・人文科学、査読無、57号、2008、93-102

小野原雅夫、非暴力の世紀へ 理想と現実の狭間で、福島大学人間発達文化学類論集、査読無、7号、2008、25-33

船木祝、がん告知を巡る日本の特徴と問題点、文化女子大学「紀要 人文・社会科学研究」、査読有、16集、2008、87-100

[学会発表](計16件)

船木祝、人間に対する遺伝子技術介入の倫理的問題 「自律」か「傷つきやすさ」か、185回日本医学哲学・倫理学学会関東支部総合部会例会、上智大学、2009年12月12日

船木祝、人間の等しさはどこにあるか、第4回総合人間学会研究大会、明治大学、2009年6月7日

八幡英幸、判断力の自己自律:1780年代中期のカントに生じた思想的転回、カント研究会第228回例会、法政大学92年館、2008年12月21日

小野原雅夫、規定的判断力の自由・改、カント研究会第227回例会、法政大学92年館、2008年11月30日

船木祝、安楽死再考 「自己決定」と「他者決定」の狭間、第27回日本医学哲学・倫理学大会、北海道大学、2008年10月25日

Kisaka Takayuki、Die Moeglichkeit der metaphysisch bestimmenden Urteilkraft、カント研究会第225回例会、法政大学92年館、2008年9月28日

Heiner Klemme、(Praktische) Vernunft und Natur in Kants Kritik der Urteilkraft、カント研究会第225回例会、法政大学92年館、2008年9月28日

船木祝、「幸福」と「道徳性」 カントにおける「判断力」概念の形成、カント研究会第224回例会、法政大学92年館、2008年8月31日

山根雄一郎、レトリックと判断力・改、カント研究会第223回例会、法政大学92年館、2008年7月27日

齋藤宜之、反省的判断と仮説的理性使用のあいだ、カント研究会第223回例会、法政大学92年館、2008年7月27日

八幡英幸、判断力とその対象 カントにおける「特殊なもの」の意味、カント研究会第220回例会、キャンパスプラザ京都、2008年3月29日

木阪豊行、形而上学的判断と現実世界、カント研究会第219回例会、法政大学92年館、2008年2月17日

齋藤宜之、反省的判断力の意義、カント研究会第219回例会、法政大学92年館、2008年2月17日

山根雄一郎、レトリックと判断力 「反省的判断力」の起源とその射程をめぐる一試論、カント研究会第218回例会、法政大学92年館、2008年1月28日

小野原雅夫、規定的判断力の自由、カント研究会第217回例会、大東文化大学信濃町校舎、2007年12月23日

船木祝、「幸福」と「道徳性」 1780年代までのカント「判断力」概念の形成過程、カント研究会第212回例会、法政大学92年館、2007年6月24日

〔図書〕(計4件)

小野原雅夫編著、プリントコープKOPAS、2007～09年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書、現代における判断力の思想的可能性の検討、2010、150

小野原雅夫・山根雄一郎編著、晃洋書房、現代カント研究 11 判断力の問題圏、2009、214

寺田俊郎・舟場保之編、小野原雅夫、山根雄一郎他、梓出版社、グローバル・エシックスを考える 「9.11」後の世界と倫理、2008、338

小野原雅夫監訳、宮川弘美訳、法政大学出版局、シセラ・ボク著、共通価値 文明の衝突を超えて、2008、212

〔その他〕

ホームページ等

http://phs.i.hosei.ac.jp/kant_ken/deutsch.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野原 雅夫 (ONOHARA MASAO)
福島大学・人間発達文化学類・教授
研究者番号：70261716

(2) 研究分担者

山根 雄一郎 (YAMANE YUUIICHIROU)
大東文化大学・法学部・教授
研究者番号：50338612

木阪 貴行 (KISAKA TAKAYUKI)
国土館大学・文学部・教授
研究者番号：10183790

八幡 英幸 (YAHATA HIDEYUKI)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：70284718